

成果の説明書

(氏名) 太田 慧	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>【教育上の成果に関する事項】</p> <p>本年度は、地理情報システム論、地理学、地域統計論、基礎演習、演習 I、演習 II を担当した。詳細は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none">・地理情報システム論：地理情報システム（GIS）の基礎的な理論や考え方を伝え、地理情報システムのソフトウェアである QGIS を用いた実習を実施した。これにより、GIS を用いた地域分析の基礎と地図によるプレゼンテーション技法を習得させた。・地理学：地理学の基礎的な考え方や理論を紹介し、主に人文地理学のテーマを具体的な地域をとりあげながら説明することで、地理学的な知識の定着を図った。本年度は対面形式とオンラインのハイブリッド形式で開講した。・地域統計論：地域政策学部での今後の学習に必要な基礎的な統計の知識について、WebGIS などを紹介しながら実践的な内容を紹介した。・基礎演習：2 年生向けのゼミを担当し、人文地理学の書籍「地理学基礎シリーズ 1 地理学概論（第 2 版）（朝倉書店、2015 年）」の輪読を行った。本年度は全面的に対面形式で開講した。・演習 I：本年度の 3 年生向けのゼミは、高崎市の地形模型を作成し、そこに GIS で作成した主題図を投影するプロジェクションマッピングを作成した。・演習 II：本年度の 4 年生向けのゼミは、主に卒業論文指導を行った。9 月には地域づくり学科 3 ゼミ合同の中間報告会を実施するとともに、2 月の卒論発表会において成果報告を行った。ゼミ生の卒業論文は卒業論文集としてまとめた。 <p>【研究上の成果に関する事項】</p> <p>今年度に公表した研究上の成果は以下のとおりである。</p> <p>(著書・分担)</p> <ul style="list-style-type: none">・杉本興運・磯野 巧編著 (2021)：「若者と地域観光—大都市のオルタナティブな観光的魅力を探る」, ナカニシヤ出版. <p>(研究費)</p> <ul style="list-style-type: none">・日本学術振興会 若手研究「周辺地域における海岸観光地の存立基盤と適正利用に関する比較研究」, 研究代表者：太田 慧 (継続)・高崎経済大学地域科学研究所「地方都市中心市街地研究—人口減少時代におけるまちづくり—」, 研究代表者：阿部圭司 (継続)	
2 その他の事項	

3 次年度以降の計画・抱負

【教育関連】

今年度担当した科目の改善を行うとともに、次年度は全面的に再開した対面講義に向けた授業を実施するための準備を行う。

【研究関連】

昨年度から継続して取り組んでいる周辺地域における海岸観光地の存立基盤と適正利用に関する研究を進め、学会や論文発表を通して公表する予定である。